

# ICCAE

 news  
No.17 2010. 4. 1

名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成22年4月1日発行 第10巻 第2号(年2回発行;通巻17号)

発行/名古屋大学 農学国際教育協力研究センター  
〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-4225(受付) FAX 052-789-4222

<http://iccae.agr.nagoya-u.ac.jp/index.html>

e-mail:iccae@agr.nagoya-u.ac.jp

## 第10回オープンフォーラム

「国際協力に対する大学の貢献のあり方：戦略的参加にむけて—農学知的支援ネットワークの設立—」を開催

農学国際教育協力研究センター (ICCAE) は、文部科学省と共催で、第10回オープンフォーラムを、台風のため当初の予定を延期し、2009年11月30日、名古屋大学野依記念学術交流館で開催しました。昨年の第9回オープンフォーラムで提案した農学知的支援ネットワークの正式な発足に向け、その周知を図り、具体的な取り組みの可能性や大学間連携の問題点などについて議論することを目的としました。

冒頭、名古屋大学の杉山寛行副総長・理事と文部科学省・浅井孝司国際協力政策室長よりそれぞれご挨拶をいただき、ICCAEの山内章センター長が開催趣旨を説明。基調講演では、持続的開発のための農林水産国際研究フォーラム (J-FARD) の東久雄会長が、我が国が果たしてきた農業・農村開発分野における国際貢献を振り返り、大学及び研究機関による人材育成や研究協力の役割が今後ますます重要になってくることを協調されました。

セッション1では、ネットワークの目ざすものとして、ICCAE・浅沼修一教授と横原大悟准教授からそれぞれネットワークの組織と運営体制及びICCAEと九州

大学の協働による我が国の国際協力の援助リソースと海外の支援ニーズの調査及びマッチング結果が報告されました。セッション2では、海外ニーズ調査と案件形成の取り組みとして、名古屋大学・中野秀雄教授がインドネシアでのマラリア感染症の事例について、また、筑波大学・平野僚子博士研究員/渡邊和男教授がミャンマーでの生物資源の事例について報告され、相手国の十分な状況把握と相手機関との信頼関係の重要性が指摘されました。セッション3では、科学技術振興機構・糸田真宏調査役、日本学術振興会・長谷川博之プロジェクトマネージャー、JICA・小原基文農村開発部長及び農林水産省・鈴木亮太郎課長からそれぞれ大学が貢献できるあるいは大学に期待されている科学技術国際協力の様々な制度・事業の紹介がありました。セッション4では、中部学院大学・竹ノ下祐二准教授/京都大学・山極寿一教授、九州大学・緒方一夫教授及び東海大学・石川智士准教授から、これまでに実施した国際共同研究・国際協力の経験から、大学のもつ多面的な協力の可能性やそれを中心になって引っ張るコーディネータの役割が非常に重要であることが説明されました。5名のパネリストによるディスカッションでは、大学への期待、大学間連携の課題と大学の事務部局による国際協力現場の理解の重要性などが議論されました。

本フォーラムで、我が国の大学や研究機関が有する知的資源は多様で、今後の科学技術国際協力への参加の期待も大きいこと、その一方で、国際協力の目的の明確化や相手国との相互理解の重要性さらには国際協力における大学間連携の仕組みの構築などの課題も指摘され、今後のネットワークの取り組みが重要であることが広く認識されました。

(浅沼修一)



パネル・ディスカッション